

# 同調行動を良しとする世界観が行列行動に与える影響

小倉実咲<sup>1</sup> 王沐良<sup>2</sup> 大西紘司<sup>3</sup>

## 要約

本研究では、人々が行列に並ぶ際の行動を説明する世界観として、同調行動を良しとする世界観があるのではないかと考えた。そしてその世界観を「同調主義」とし、「同調主義が強いほど、行列に並ぶ時間が長くなる」という研究仮説のもとで、若年層を対象にアンケート調査を実施した。また、日常生活の中で国籍や文化によって行列行動は異なり、その原因が同調主義の相違にある可能性があるとして、アンケート調査の対象を日本人と中国人とした。そして日本人 118 人、中国人 59 人の有効な回答が得られた。本研究によって、日本人と中国人のどちらにおいても、「同調主義が強いほど、行列に並ぶ時間が長くなる」という研究仮説と整合的な結果が得られた。他の行動経済学の研究から得られつつある洞察とあわせ、消費者による行列行動の非効率性の改善に関して、本研究から得られる洞察が将来に役立つことが期待できる。

JEL 分類番号 : D900, D910

キーワード : 同調, 行列, 世界観

---

<sup>1</sup> 慶應義塾大学 misaki-ogura@keio.jp

<sup>2</sup> 慶應義塾大学 wangmuliang@keio.jp

<sup>3</sup> 慶應義塾大学 onishikoji120@keio.jp

## 1. イントロダクション

日本の都心部では昨今、長い行列を目にすることが多い。飲食店や家電量販店、宝くじ売り場等の前にできる行列に並んでいる時間は、消費者は何も生産しないため、消費者にとって非効率的である。本研究を行うにあたって、我々は行列ができる原因を、人々の世界観、感情の面から説明することを目標にした。ここで、世界観とは、ひとつの人々の集団が生活を秩序付けるために用いている、現実の性質に関しての、認識、感情、判断に関する、基礎的な仮定と枠組みのことを言う（大垣・田中，2014）。

人は日常生活のなかで、明確な意思なく行動を起こすことがあり、そのような行動の一つに同調行動がある。同調行動とは、ある事物に対する他者の見方や態度が自分と異なることに気づき、他者からの圧力を感知して他者の行動に自分も合わせることである（狩野，1985）。本研究では、同調行動を良しとする世界観を「同調主義」と呼ぶことにする。そして「同調主義」が、行列という経済行動に影響を与えているのではないかと考えた。これらのことから、本研究では「同調主義が行列行動に与える影響」をテーマとし、「同調主義が強いほど、行列に並ぶ時間は長くなる」という研究仮説を立てた。中国では、飲食店において入り口で整理券を配布することによって、一時その場を離れたとしても自分の順番が来る前にお店に戻れば、行列を作らずに済む仕組みが多い。そのため、中国人はその場で待って並ぶという「伝統的」な行列に慣れておらず、並ぶ時間が短いと言われることがある。そこで、日本人と中国人を対象に同じアンケートを実施し、結果を比較した。また日中共に、同調する対象との親密度が、経済行動への影響の強さや同調主義の強さに影響を与えるのではないかと考え、同調主義を問う質問を親密度によって2種類に分けて行った。

## 2. 方法

Google Form と問巻星でアンケートを作成し、LINE と WeChat 上で拡散し回答を集め、回帰分析を行った。アンケートは、慶應義塾大学および関東圏の大学の学部生、大学院生を中心とする日本人男女 118 名、中国人男女 59 名から有効な回答を得た。Google Form とは Google Drive 上でアンケートなどを作成するツールである。問巻星とはアンケートの作成と配布、結果の収集と分析を行う中国のインターネットサイトである。また、LINE、WeChat とは SNS の一つであり、インストールされた情報端末間でチャットや通話を行うことのできるアプリケーションである。

アンケートの内容については「6. 付録 質問票」に掲載しているので参照していただきたい。比較的親密度の高い集団の中での同調主義の強さを問う質問として、質問 1～質

問6を設け、比較的親密度の低い集団の中での同調主義の強さを問う質問として、質問7～質問12を設けた。質問13、14は行列行動に関する質問である。アンケートの質問1～質問12では、選択肢として1～6の度合いを設定した。数字が大きいほどその質問内容に強く同意していることを示す。質問13、14では、回答した選択肢の階級値を被説明変数の値として用いた。ただし、「180分以上」という回答に関しては、180という数値をそのまま被説明変数として用いた。そして、得られたアンケート結果をExcelで回帰分析した。本研究では、ダミー変数を用いた重回帰分析を行ったが、その際用いたモデルは一般的なものを用いた。

### 3. 結果・分析

アンケート結果から得られた記述統計量を記載する(表1)。質問1から質問12の同調主義を問う質問項目ではそれぞれが最大値6、最小値が1となった。徒歩20分を移動に要する場合である質問13での行列に並ぶ平均時間は約26分であるのに対し、電車で1時間を移動に要する場合である質問14での行列に並ぶ平均時間は約39分であった。

表1 記述統計量

	平均	標準偏差	最大値	最小値
質問1	4.807	1.207	6	1
質問2	3.481	1.272	6	1
質問3	3.392	1.5	6	1
質問4	2.691	1.175	6	1
質問5	3.807	1.325	6	1
質問6	3.320	1.508	6	1
質問7	4.901	1.146	6	1
質問8	3.442	1.431	6	1
質問9	3.545	1.236	6	1
質問10	3.542	1.303	6	1
質問11	3.533	1.438	6	1
質問12	3.537	1.220	6	1
質問13	26.381	25.14	180	0
質問14	47.790	38.81	180	0

アンケートから得られたデータを回帰分析した結果、同調主義が強い人ほど行列に長く並ぶという研究仮説と整合的な結果がいくつかの質問項目で得られた(表2)。

表2 単回帰分析における有意な結果

	被説明変数	説明変数	係数	P 値
日本	13, あなたは一人で家から歩いて20分のところにある〇〇屋さん(あなたの大好物のお店)に行きました。すると、そのお店の前にはなんと行列ができていました。あなたは何分待てますか。	6, 自分を含めて3人以上の仲の良いグループを想像してください。自分以外の人が使っているスマホアプリ(使わなくても生活に支障はない)を、あなたも使ってみたいと思う。	3.83643**	0.01549
	13, あなたは一人で家から歩いて20分のところにある〇〇屋さん(あなたの大好物のお店)に行きました。すると、そのお店の前にはなんと行列ができていました。あなたは何分待てますか。	11, 世間で人気のスマホアプリ(使わなくても生活に支障はない)を、あなたも使ってみたいと思う。	4.43864***	0.00852
	14, あなたは一人で、〇〇屋さん(あなたの大好物のお店)に電車で1時間かけて行きました。すると、そのお店の前にはなんと行列ができていました。あなたは何分待てますか。	2, 仲のいい友人集団の仲間の望むように行動する必要はないと思う。	-6.39649*	0.05918
中国	13, あなたは一人で家から歩いて20分のところにある〇〇屋さん(あなたの大好物のお店)に行きました。すると、そのお店の前にはなんと行列ができていました。あなたは何分待てますか。	4, 仲のいい友人に対して、批判したり違う意見を言ったりすると、いつも自分が悪い気がする。	-0.01853**	0.01001
	13, あなたは一人で家から歩いて20分のところにある〇〇屋さん(あなたの大好物のお店)に行きました。すると、そのお店の前にはなんと行列ができていました。あなたは何分待てますか。	12, 街を歩いていると人集りができていました。あなたはそこで何が起きているかを見に行きたいと思う。	0.01181*	0.09764

14, あなたは一人で、○○屋さん(あなたの大好きのお店)に電車で1時間かけて行きました。すると、そのお店の前にはなんと行列ができていました。あなたは何分待てますか。	7, 一人で公共の場(例:電車の中)にいる場合、周囲(あなたの近くにいる人たち)の和を保つべきだと思う。	0.00785**	0.03396
---	--	-----------	---------

日本の場合には質問1と質問6, 中国の場合には質問7と質問12の同調主義に関する質問と行列行動の間に係数が正の有意な結果が出て、同調主義が行列行動に正の影響を与えることと整合的である結果が得られた。しかし、日本における質問2と中国における質問4のそれぞれについて行列行動の関係は有意であるが係数が負であった。

ダミー変数を用いた重回帰分析では(1)式を用いた。 $i$ =中国人の時は $D=0$ ,  $i$ =日本人の時は $D=1$ とし、 $i$ は各回答者を指す。

$$Y_i = a + bD_i + cX_i + dX_iD_i \quad (1)$$

この重回帰分析より、中国人は日本人に比べて同調主義の度合いが強い人ほど、行列に長い時間並ぶという結果になった(表3)。また、質問4に関しては「3 どちらかといえばそう思わない」で日本と中国がほぼ同じ行列の待ち時間となる(図1)。質問5に関しては、「4 どちらかといえばそう思う」で日本と中国がほぼ同じ行列の待ち時間となる(図2)。

表3 重回帰分析有意な結果(質問13の徒歩20分を移動に要する場合)

質問4: 仲のいい友人に対して、批判したり違う意見を言ったりすると、いつも自分が悪い気がする。	係数		質問5: 30人のクラスを想像してください。クラスの中で自分一人だけ違う意見を持っていても、自分の意見ははっきり言った方がいいと思う。	係数	
	切片			切片	
	切片	9.3793		切片	12.02283
	$X_i$	5.9762**		$X_i$	3.62015
	$D_i$	16.7736*		$D_i$	30.45233**
	$X_iD_i$	-5.80075*		$X_iD_i$	-7.79827**

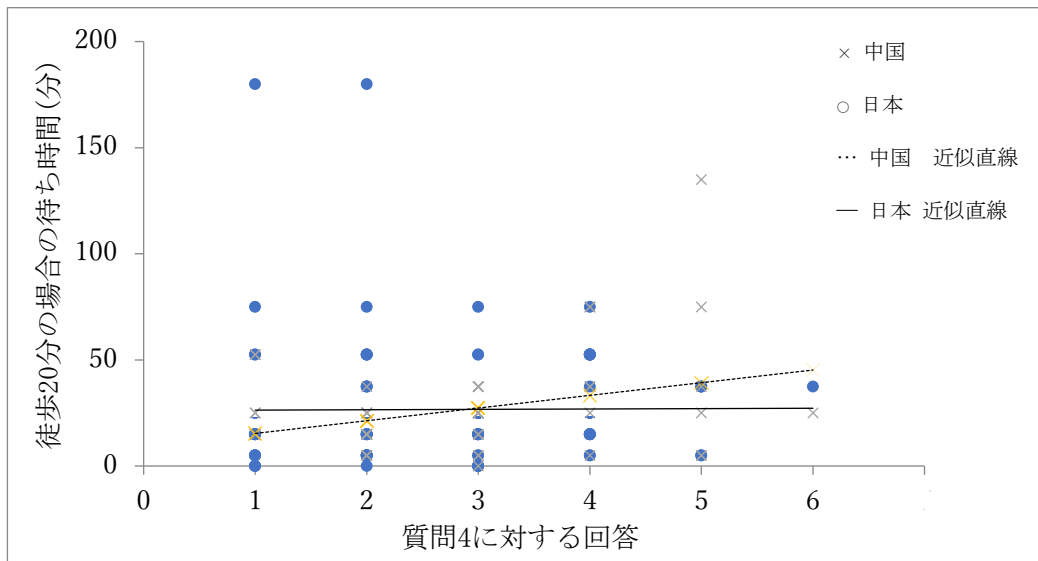


図1 質問4と質問1 3の重回帰分析結果

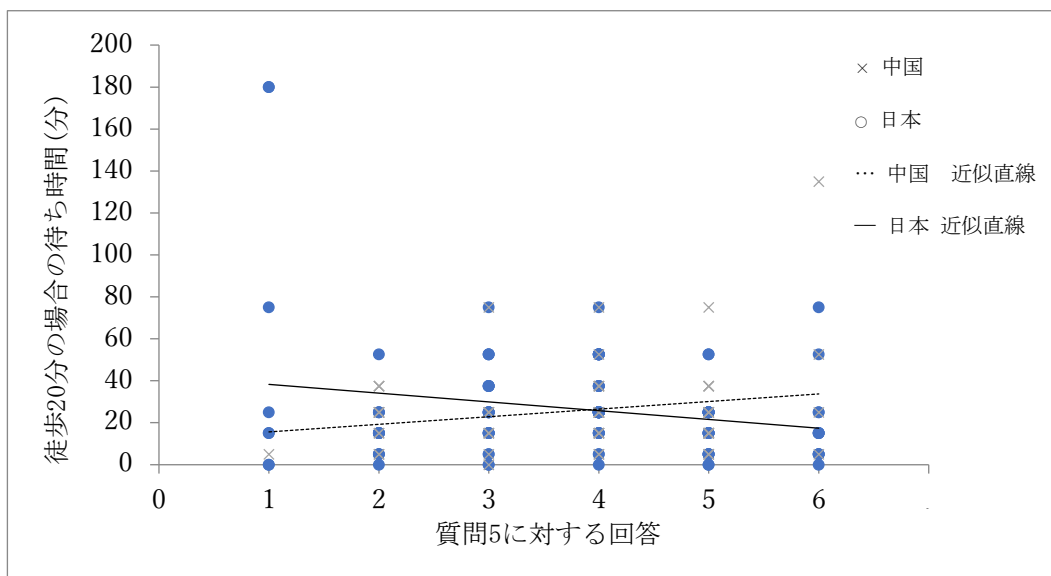


図2 質問5と質問1 3の重回帰分析結果

#### 4. 考察

回帰分析の結果によって、同調主義が行列行動に影響を与えるという研究仮説と整合的な結果が得られた。そして、日本と中国の両国においてなぜ違う質問から有意な結果が出たのかについて考える。まず、同調行動をより細分化すると、友人集団のような親密度の高い集団への同調主義と、見ず知らずの公共の場にいる人のような親密度の低い集団への

同調主義がある。今回の「一人でお店に行く」という設定の下では、親密度の低い集団への同調主義がより働くと考えた。この考えを検証するために、有意な結果が出た質問7とそのペアになる質問1を使い分析した。質問1と質問7の内容はほぼ一緒であるが、質問1は友人への同調の度合いを測る質問であるのに対し、質問7は公共への同調の度合いを測る質問であった。そのため、質問7の回答結果から質問1の回答結果を引いて得られる数値は、友人と公共への同調行動をよしとする度合いの違いを意味する。その平均値をとると、日本の場合は-0.13934であり、中国の場合はちょうど0であり、つまり、この問題において日本人より中国人の方が公共への同調をよしとする度合いが相対的に高い。そのため、この問題においては日本の場合は有意な結果が出なかったが、中国の場合は有意な結果が出たと考えられる。

質問2と質問14の単回帰分析結果について、日本の場合は負の係数で有意であり、中国の場合は、有意な結果が得られなかった。これについて、「仲間の望み」の中身に対する解釈が重要だと考えられる。例えば、「徹夜をやめて健康な生活を送ろう」という自分にとって長期的に有利な望みもあれば、「一緒に授業をサボって遊ぼう」という自分にとって短期的に不利な望みもある。そのため、必ずしもいつも仲間の望むように行動するわけではなく、場合分けして判断するのが普通であろう。この理由から、自分にとって不都合な場面を避けようとする気持ちが他人と同調する気持ちを越えたため、質問2と質問14の相関関係を説明できるのではないかと考えられる。

中国の結果において、質問6と質問11の間に有意な結果がなかったことについて、使わなくても生活に支障はないという言葉に惹かれた可能性がある。みんなが使っているから自分が使わないと他人と連絡を取れないLINEのような生活必需アプリではないため、たとえ周囲の人や世間が使っているとしても、自分には用途がなければ、使いたいと思わない可能性が高いと考えられる。つまり、ここでは、用途があるかどうかを重んじる度合いが同調主義の度合いを上回るのではないかという可能性がある。

## 5. 結論

今回、「同調主義が行列行動に影響を与える」という仮説において、有意な結果が得られたものがあったことにより、人々が行列に並ぶ動機の一部を理解できた。また、今回の研究を行っていく中で、日中比較をすることにより、同調行動を、同調する集団との親密度によって分ける必要があるのではないかと考えたが、これらの分類によって、行列行動に直接繋がる世界観についても研究をすることで、人々が行列に並ぶ背景を深く知って行

けるだろう。また、それは消費者が行列に並ぶことによる消費の非効率性を改善することに繋がる可能性があると考える。

## 6. 付録 質問票

\*を付した質問は逆転項目である。

質問 1, 質問 2, 質問 3, 質問 4 については吉田 (2001) を一部参考にし, 作成した。

質問 I : 性別 (男, 女, その他)

質問 II : 生まれた年をご記入ください。 (半角数字)

質問 III : 職業 (1 大学生, 2 専門学生, 3 高校生, 4 会社員, 5 主婦・主夫, 6 フリーター, 7 その他)

質問 IV : 国籍をお選びください。 (1 日本, 2 中国, 3 韓国, 4 欧米, 5 その他)

質問 1 : 仲のいい友人集団の和を保つべきだと思う。

質問 2\* : 仲のいい友人集団の仲間の望むように行動する必要はないと思う。

質問 3\* : 仲のいい友人の意見に合わせて, 自分の意見を変える必要はないと思う。

質問 4 : 仲のいい友人に対して, 批判したり違う意見を言ったりすると, いつも自分が悪い気がする。

質問 5\* : 30 人のクラスを想像してください。クラスの中で自分一人だけ違う意見を持っていても, 自分の意見ははっきり言った方がいいと思う。

質問 6 : 自分を含めて 3 人以上の仲の良いグループを想像してください。自分以外の人が使っているスマホアプリ (使わなくても生活に支障はない) を, あなたも使ってみたいと思う。

質問 7 : 一人で公共の場 (例: 電車の中) にいる場合, 周囲 (あなたの近くにいる人たち) の和を保つべきだと思う。

質問 8\* : 一人で公共の場 (例: 電車の中) にいる場合, 周囲の人 (あなたの近くにいる人たち) の望むように行動する必要はないと思う。

質問 9 : 流行に乗るべきだと思う。

質問 10 : 一人で公共の場 (例: 電車の中) にいる場合, 目立つ行動をとると, いつも自分が悪い気がする。



質問 1 1 : 世間で人気のスマホアプリ (使わなくても生活に支障はない) を, あなたも使ってみたいと思う.

質問 1 2 : 街を歩いていると人集りができていました. あなたはそこで何が起こっているか見に行きたいと思う.

質問 1 ~ 1 2 の選択肢

- 1 全くそう思わない
- 2 ほとんどそう思わない
- 3 どちらかといえばそう思わない
- 4 どちらかといえばそう思う
- 5 ほとんどそう思う
- 6 非常にそう思う

これ以降の質問では, 以下の仮定を置きます.

今日は天気が良く快適な気温の日です. あなたは時間に余裕があり, これからお昼ご飯に何を食べようか考えています.

質問 1 3 : あなたは一人で家から歩いて 2 0 分のところにある〇〇屋さん (あなたの大好物のお店) に行きました. すると, そのお店の前にはなんと行列ができていました. あなたは何分待てますか.

質問 1 4 : あなたは一人で, 〇〇屋さん (あなたの大好物のお店) に電車で 1 時間かけて行きました. すると, そのお店の前にはなんと行列ができていました. あなたは何分待てますか.

質問 1 2 ~ 1 3 の選択肢

- 0 分
- 0 分より長く 10 分以下
- 10 分より長く 20 分以下
- 20 分より長く 30 分以下
- 30 分より長く 45 分以下
- 45 分より長く 60 分以下
- 60 分より長く 90 分以下
- 90 分より長く 120 分以下

120 分より長く 150 分以下

150 分より長く 180 分以下

180 分以上

## 7. 引用文献

大垣昌夫, 田中沙織, 2014. 行動経済学. 有斐閣, 東京. pp. 194

狩野素朗, 1985. 個と集団の心理学. ナカニシヤ出版, 京都. pp. 111

吉田富二雄編, 2001. 心理測定尺度集Ⅱ. 堀洋道監修. サイエンス社, 東京. pp. 242-243